

遠野地域における松くい虫被害木調査技術検討会の開催

1 はじめに

遠野市では、平成17年に松くい虫被害が確認され10年間で被害量が1,200m³まで激増しました。近年、被害量は概ね減少傾向ですが、「遠野市松くい虫防除戦略」における被害先端地域への被害が徐々に拡大しています。

国、県、市及び林業関係者が、被害拡大防止に向けた取組を進める中で、今回「松くい虫被害木調査技術検討会」を開催しましたので、その内容を紹介します。

2 検討会の開催

遠野地方森林組合が導入したサーマル(熱赤外)カメラ搭載ドローンを活用し、被害木と健全木の温度差を観測することで、目視では認識できない潜在被害木を確認できるか検証するため、市内関係者に参集いただき「松くい虫被害木調査技術検討会」を開催しました。



ドローンによる調査の様子

令和6年8月7日に、市内アカマツ林においてサーマルカメラ搭載ドローンによる調査を

実施しました。約3haの範囲を15分程度で上空から撮影し、その後、撮影データのオルソ化等解析を行い、被害木と健全木の温度差から潜在被害が疑われる松を特定し、地上踏査(ヤニ打ち)を実施しました。



サーマルカメラ画像の解析結果報告

令和6年9月4日に、調査結果の報告及び今後の被害調査に係る意見交換を実施しました。

サーマルカメラ画像により潜在被害が疑われた箇所抽出が少なかったり、なんらかの要因で被害木と健全木の温度差が正確に表示されない箇所があったりと、検証の積み重ねが必要な結果となりました。

ドローンの空撮画像による被害把握や潜在被害木の早期発見等、今後の活動に向けた様々な意見が交わされました。

3 今後の取組

サーマルカメラ画像による被害調査については、引き続き関係機関と協力し、データを蓄積し検証を重ねていきたいと思っております。